

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 南小倉 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

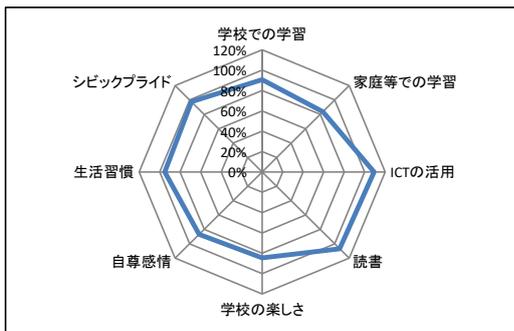
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「適切なものを選択する」形式の問題では無解答の割合が低かった一方で、「自分の考えや、その理由を記述する」問題においては、無解答の割合が比較的高い状況が見られた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	変換した漢字として適切なものを選択する	
	努力が必要な問題	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	

数学	全体的な傾向や特徴など	「説明する問題」や「証明する問題」への無解答の割合が高かった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	果汁40%の飲み物 α mL に含まれる果汁の量を、 α を用いた式で表す	
	努力が必要な問題	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	

理科	全体的な傾向や特徴など	全国の割合と比べて、「生命」を柱とする領域における思考・判断・表現は、約10ポイント下回っていたが、「粒子」を柱とする領域における思考・判断・表現は、約2ポイント上回っていた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	
	努力が必要な問題	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣に関する質問で、毎日の朝食、起床時間、就寝時間について約8割の生徒が肯定的な回答であった。 「自分には、よいところがある」との回答が全国平均より低く、自己肯定感の低さが見受けられた。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」などの優しい人間性をもった生徒の割合が高かった。 「あなたは自分がインターネットを使って「情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか」については肯定的な意見の割合が高かったが、情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか」という回答は全国平均よりも低かった。 家庭等での学習が全国平均より下回っていた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

教科によっては「説明する問題」の無回答率が高く、ICT機器の活用においても「情報の整理」に課題が見られた。そのため、主体的・対話的で深い学びにつなげるために、日頃の授業での話し合いの時間を充実させ、その内容を整理しまとめて表現するための「書く活動」を継続的に行っていく必要がある。また、授業外でのICT機器を活用した学習の割合が低かったことから、まずは家庭学習においてドリルアプリの活用を引き続き促し、学習習慣の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

毎日の朝食や起床・就寝時間については、約8割の生徒が肯定的に回答しており、今後も生徒会・体育科・養護教諭と連携して、基本的な生活習慣の定着に向けた呼びかけを継続していく。また、家庭学習の習慣化を図るために自学ノートの活用を検討し、勉強方法が分からない生徒への支援として、模範例を掲示して参考にできるようにする。